

# 新緑輝く春の抜け道

## 公開の愛岐トンネル群

雨のため一日遅れて、二十七日に公開が始まった春日井市と岐阜県多治見市を結ぶ旧国鉄中央線廃線跡「愛岐トンネル群」。期間は四日間に短縮されたが、この先は比較的天気にも恵まれる見込みで、主催するNPO法人「愛岐トンネル群保存委員会」メンバーは過去最多だった昨年並みの六千人の出入を期待している。

(磯部旭弘)

春日井、30日まで



秘境ムードのトンネルから、新緑の景色が広がる遊歩道へと抜けるハイキング客たち。春日井市で



⑤会員手作りの竹製品が並び、テントも人気だった。⑥新緑の中でのコンサートを開く地元有志と、楽しげに聞き入る人たち。いずれも春日井市で

「真っ暗だね」。トンネル内で来場者たちが声を上げた。一・七キロ区間の一番奥にある全長三百三十三分の「六号トンネル」内だ。敷地内の竹を土台にした菜種油の明かりと、来場者が手にする懐中電灯が頼り。「目が慣れない。困ったな」と出入り口付近で話す声も聞かれた。初めて訪れた浅野双平さん(セミ)岐州市は「本当に真っ暗で、レンガに歴史を感じる」と話した。

一帯に生える竹を活用した会員手作りの竹製品が並び、テントでは、竹とんぼやカエルの形をした置物などが並び「懐かしいね」「孫にいいかも」と品定めする姿もあった。

あちこちで開催されているミニコンサートも盛況で、ギターやベースの音に合わせて拍手が起きていた。奏者の和嶋一寛さん(栄巴)と青木正士さん(栄)いずれも小牧市桃花台は「自然の中で演奏できるなんて最高」とうれしそうだった。

道中の木々には、木の名前を記した札や解説書が付けられ、自然を学ぶ場にもなりそう。筒井保博さん(栄)三重県桑名市は「植物を見るのも楽しいですね」。新緑の

### 竹製品販売、ミニコンサートも

撮影スポットを求め、カメラを構える写真愛好家の姿も目立った。

再生委員会の山本勝利理事長(全)は「訪れる人がいい顔をしていて楽しそう。本当にありがたい」と話した。

三十日まで連日午前十時～午後二時の公開(入場は午後二時まで)で、見学料は小学生以上百円(保険料など含む)。駐車場はなく、JR定光寺駅下車。岡村上真善事務局長(電)090(4)860(4)664

